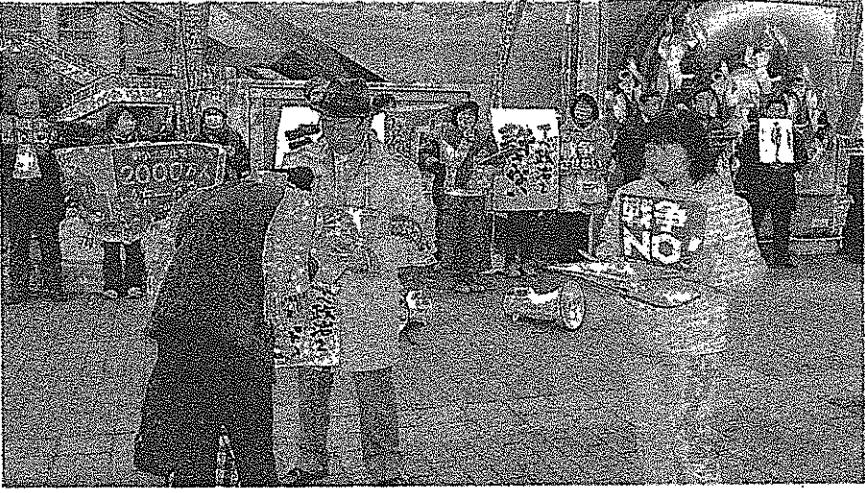


129  
5族

# 「戦争止めたい一心」200日



2000万署名に呼びかける市民 28日、徳島駅前

## 徳島駅前 昨夏以来休まず行動

徳島憲法共同センターが徳島駅前で行う「戦争法反対署名連日行動」が、28日で200日目になりました。衆議院で法案審議が緊迫していた昨年7月12日以来、台風が通過した8月25日を除き、年末年始も休まず続けています。

(徳島県・藤原肇)

この日は9団体30人が参加。同センター事務局の県労連、山本正義議長が「憲法違反の安倍暴走政治への怒りが広がっている。みなさんの願いを署名に託してほしい」と戦争法廃止の2000万署名への協力を呼びかけました。

なじみの市民が増え、毎回「前日」署名した方「頑張っていて」声がかかり「通学時に」宣伝を「見ている」という阿南市の

広げよう  
2000万署名

女子大生(18)は28日の宣伝で「戦争法は、自分や家族に関わることなのです」と署名しました。毎日の運営は構成団体の分担制で、日曜は革新懇と

国民救援会、平和委員会、月曜は民商と生活と健康を守る会、火曜と土曜は日本共産党と民青同盟、水曜は新日本婦人の会、木曜は県労連、金曜は健康生協と民医連が担当。強行採決の緊急時や3日、19日などの節目の集会にも機敏に対応でき、地元メディアでたびたび報道されました。

夫と2人で最多参加の横山千鶴さん(61)は「戦争だけは止めたい一心で参加しています。小中学生が『署名してもいいですか』と尋ねてくれるのが、うれしい」と語ります。元職場や行きつけの店、自宅に来る集金や宅配の人にも「戦争が好きというのでなければ協力して」と署名を勧め、「断る人はいません」と言います。

署名1000人分を目標にしている米澤正博さん(64)は「私は9条のおかげで戦争に行くことなく生きてきた。殺し殺される国を孫に残せない」と熱く語り、400人分を集めています。隣近所への訪問にも足を踏み出し、目標達成に向け奮闘しています。

県労連の森口英昭事務局長は「戦争法を一日たりとも忘れないと続けていきます。参院選で安倍政権に厳しい審判を下す、そのため戦争法廃止の野党共闘実現に向け、職場、地域で2000万署名を広げる取り組みに全力を挙げたい」と語りました。